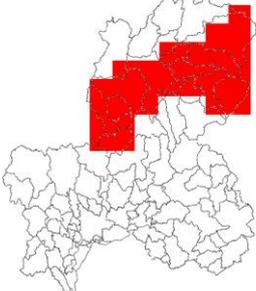


キヨミトリカブト	<i>Aconitum kiyomiense</i> Kadota	絶滅危惧Ⅱ類
		キンポウゲ科
選定理由	既知の生育地で生育の条件が明らかに悪化しており、個体数が大幅に減少している。また、大部分の個体群がその再生産能力を上回る採取圧に曝されている。	写真(岐阜大学教育学部標本室) 
形態の特徴	多年草。茎は直立し、よく分枝し、枝先に無限的花序(花は下から咲いて行く)をつくり、疎らに青紫色の烏帽子形花を多数つける。	
生態的特徴	標高1000m前後の湿地に生える。	
分布状況	日本固有の種。飛騨山脈(北アルプス)と両白山地(白山山系)に挟まれた飛騨高地の特産。県北の中部に生育する。	
減少要因	本種の分布域は県北の中部に限定されており、もともと生育個体数も少ない。また、その再生産能力を上回る採取圧に曝されている。	
保全対策	生育地を公表する必要がある場合は、生育場所を特定できることのないような配慮が必要である。また、生育地の保全に配慮が望まれる。	
特記事項		
参考文献	佐竹義輔ほか編「日本の野生植物 草本Ⅲ」平凡社(1982) 門田裕一「岐阜県産トリカブト属植物(キンポウゲ科)の分類と分布」岐阜県植物研究会誌4(1987)	

文責:佐藤和良